

Weekly Report

事務局：460-0003

名古屋市中区錦1-13-19

名錦ビル7F

TEL: 052-211-3803

FAX: 052-211-2623

MAIL: 2760_nagoya@mizuho-rc.jp

URL: http://www.mizuho-rc.jp/

創会 立：1980年(昭和55年)1月10日

幹 長：亀井 直人

事 事：鳥山 政明

クラブ委員長：杉山 裕一

例会日：毎週木曜日 PM12:30～

会場：ヒルトン名古屋

2025-26年度
名古屋瑞穂ロータリークラブ
会長のテーマ

「瑞穂ロータリーを理解し、そして楽しむ!」

2025-26年度
国際ロータリーのテーマ

よいことのために手をとりあおう

第2170回例会

～青少年奉仕月間～
クラブテーマ：「熱田の杜・友愛・気品」

2026年5月14日(木) 晴 第34回

司 会：加藤直大 会場委員

斉 唱：「我らの生業」

ゲ ス ト：山崎眼科 医院長 山崎俊様

弁護士法人草野法律事務所 古賀照平様

Soulife株式会社 代表取締役 稲葉大佐様

米山奨学生：安恩智(アンウンジ)さん

会長挨拶

田中宏 副会長

皆さん、こんにちは。本日は亀井会長の代理で挨拶をさせていただきます、副会長の田中宏です。今日は歌を歌う際の選曲の難しさについてお話させていただきます。

皆さんはそれぞれお気に入りの曲があると思いますが、場にふさわしい曲と、そうでない曲があります。例えば、結婚式ではテレサテンさんの「別れの予感」やヒロシ&キーボーの「三年目の浮気」は曲名からして歌いませんし、「失恋」などおめでたい席に水を差すネガティブな表現が歌詞に含まれる曲もNGです。福山雅治さんの「家族なろうよ」とか中島みゆきさんの「糸」などが好んで歌われるようです。

過日、夜の店でお酒をいただいております際の、最後の1曲に1971年に発表されて第13回日本レコード大賞を受賞された曲である(ちなみにこの1971年の最優秀歌唱賞は森進一さん「おふくろさん」最優秀新人賞は小柳ルミ子(曲:「わたしの城下町」)でした。)尾崎紀世彦さんの「また逢う日まで」を選びました。

また逢う日まで、逢える時まで別れのその訳は話したくない なぜかさみしいだけ なぜかむなしいだけ 互いに傷つきすべてをなくすから ふたりでドアを閉めて、ふたりで名前消して その時心は何かを話すだろう。

という歌詞で作詞は阿久悠さん作曲は筒美京平さんです。私としては、曲名を重視して選曲して、気持ちよく歌い終えたのですが、「こんな勝手な男の人はありえん、別れのその訳を話さずに二人でドアを閉められるわけがない」と笑って言われてしまいました。「なるほど、そう解釈するのか」と改めて思いながら、謝罪して店を出ました。

この「また逢う日まで」が発表された1971年、当時6歳の私にとっては懐かしのメロディー(懐メロ)であり、歌詞の意味も分からず歌っていて、この歳になってしまいました。場所によって曲名だけでなく歌詞も十分検討して選曲する必要があることを再認識した次第です。皆さんの十八番の曲は、いかがでしょうか。

奨学金授与

安恩智さん



出席報告

横山請悟 出席委員

会員71名 出席55名 (出席計算人数58名)

出席率 84.62%

ニコボックス

横山請悟 ニコボックス委員

- ・ 家内の誕生日に綺麗なお花をありがとうございました。 佐治 寛行さん
- ・ 4月28日は家内の誕生日でした。綺麗なお花をありがとうございました。 伊藤 豪さん
- ・ 先日妻の誕生日に綺麗なお花を送っていただきありがとうございました。また、ヒルトンのディナーショーでは内田さんに大変お世話になりました。 泉 憲一さん
- ・ 山崎先生、本日卓話よろしくお祈りします。自分は次週よりペブルビーチに行ってきます。健康に遊びたいです。 長谷川 隆さん
- ・ 5月18日は40回目の結婚記念日です。よくもちました。 堀 慎治さん
- ・ 先週末、熱田の若者を連れて伊勢神宮式年遷宮の御木曳をさせていただきました。息子にも貴重な経験をさせることができました。 鈴木 淑久さん
- ・ ペブルビーチ楽しみです。 今川 知也さん
- ・ 先日、無言館を訪れ静寂な時間を過ごしました。言葉では簡単に表現できない素晴らしい場所です。 杉江 建亮さん
- ・ 本日、次年度米山奨学生の安恩智(アンウンジ)さんが来会しています。1年間仲良くお願いします。 新見 光治さん
- ・ 野球部訓練お疲れ様でした。 福岡 逸人さん
- ・ 入会を温かく迎えてくださりありがとうございます。今週末から暑くなるようです。皆様ご自愛ください。 横山 敦信さん
- ・ 次女が5月12日に二十歳の誕生日を迎えることができました。 盛田 一行さん
- ・ 本日より、次年度米山奨学生、安恩智(アンウンジ)さんが例会に参加します。あんちゃんです。1年間よろしくお祈りいたします。 荻野 達朗さん
- ・ 卓話楽しみにしています。 内藤 晶文さん

幹事報告

鳥山政明 幹事

- ・ 5/14(木) 第6回クラブアッセンブリー・第11回理事会 13:40～ヒルトン名古屋4F「美杉の間」
- ・ 5/18(月) 福岡西RC創立70周年記念例会 17:00よりホテルオークラ福岡4階「平安の間」にて行います。16:00受付、16:30に4階ロビー集合となります ※記念式典:17:00～ 祝賀会:18:45～
- ・ 5/21(木) R規定により休会
- ・ 5/28(木) 第3回クラブ奉仕委員会 17:30～事務局 RAC・IAC合同例会 19:00～20:30 ヒルトン名古屋4F「竹の間」

米山奨学生 挨拶

安恩智さん

韓国出身のアンと申します。名古屋市立大学の大学院で社会言語学について研究をさせていただいています。日本に来て5年目になります。元々、日本人の母のおかげで日本に住んでみたいという素朴な理由で留学を決めました。今は実際に生活している中で、日本という社会と日本語という言葉についてもっと知りたいと思うようになりました。今は愛知県のあるところを積極的に遊びに行っていて楽しんでいます。今後もロータリークラブという新しい経験をさせていただくことになってすごく嬉しいです。今後もよろしくお祈りします。



5月誕生日おめでとう

榎田 篤弘さん 長瀬憲八郎さん 堀 慎治さん
大和 直樹さん 田中 良知さん

委員会・同好会報告

ゴルフ部会5月度 (465回)

開催日:5月12日(火)

ぎぶ美濃ゴルフ倶楽部にて第465回ゴルフ部会が開催されました。

| 氏名 | グロス | HDCP | ネット |
|------------|-----|------|------|
| 優勝 関谷 俊征さん | 86 | 15.6 | 70.4 |
| 2位 今川 知也さん | 78 | 8.4 | 69.6 |
| 3位 村上 学さん | 95 | 25.2 | 69.8 |

社会奉仕委員会

瑞穂ロータリークラブが支援しています。瑞穂区の児童養護施設ひばり荘に前回、堀さんから名古屋グランパスのチケットをひばり荘の児童養護施設に贈呈いただきましたが、今回は宮崎さんからクオカードを本を買う用にいただきました。ありがとうございました。

卓 話

山崎眼科 医院長 山崎俊傑

皆様、こんにちは。今日はこのような機会をいただきまして、誠にありがとうございます。春日井市で眼科を開業しております。山崎俊と申します。長谷川先生のところから1キロも離れていないところで開業しております。長谷川先生にはいろいろの病気の、眼瞼下垂などの手術等で大変お世話になっております。本当にありがとうございます。



私はだいたい2007年からアフリカのタンザニアという国で眼科のボランティア活動をやってきており、この18年ぐらいに1回ぐらやってきました。基本的に何をしているかというと、白内障の手術を技術指導をしに行っています。

おそらく白内障の手術、この中にも受けた方はおられるかと思いますが、日本を含めた先進国では、白内障という病気が当たり前のように手術で治療が可能ですが、アフリカ、アジア、といった途上国では、いまだにこの手術を受ける恩恵にあずかれないというような状況、また世界的には白内障が失明原因の圧倒的な1位ですから、そういうのを何とか改善していきたいという思いから続けてきた活動であります。そんな経験を紹介できればと思っています。

日本・世界の失明の原因についてお話ししますと、日本では緑内障とか糖尿病、そういった病気が失明の原因になっていて、大体年間で日本で2,3,000人ずつ両目失明してしまう病気です。ところが世界に目を移してみますと、白内障という病気が断然の第1位です。

大切なポイントとして、白内障というのは手術で治ることが基本的な問題点です。その手術を受ける機会がない。ただ、日本をはじめとする先進国でも50年ぐら前は白内障でも失明する病気でした。ところが、だいたい50年ぐら前に超音波白内障手術という新しい手術の方法が開発されて、合理的で有用な白内障手術ができるようになりました。これによって日本をはじめとする先進国でも白内障は失明の原因ではなくなりました。1977年に私の上司である馬嶋慶直先生、藤田医大の初代眼科教授ですけど、馬嶋先生が日本で初めて行いました。

簡単にどう手術かという、白内障は眼の中の水晶体という大体1センチぐらいの円盤状の組織が濁ってくる。濁ってしまうから眼鏡とか目薬で治らない。この濁りを取り除かないと視力は取戻せないということで、50年以上前は白内障を丸ごと切取り出していました。それが手術に30分から1時間かかりますし、基本的に入院の手術だったのが、この超音波白内障手術、3ミリ以下の傷口から器具を入れて、この濁った水晶体を超音波で溶かして分割して細かくして吸い出すというような方法になってから10分から15分で終わるようになり、基本的に日帰り手術になっていったという経緯があります。

馬嶋慶直先生は、以降30年で金さん銀さん、小説家の曾野綾子さんの手術を行いテレビ報道されたりして白内障手術の知名度が上がっていったと思います。

そういうことをふまえて、タンザニアでの眼科支援活動を行っているわけですが、2007年から年一回程度、1週間ほど、超音波白内障手術の技術を中心とした支援活動、技術指導を行っています。現地の眼科医関係者と連絡を取りながら、不足している機器、技術、薬剤、そういったものをできる範囲で提供、管理、指導を行います。あと、タンザニア眼科医に日本に来てもらって、研修してもらって知見を広げてもらう、そんなこともやっております。

この18年間でタンザニアへは16回行ってます。2007年から2025年、去年も行きましたけど、コロナの頃にはあまり行けませんでした。タンザニアはどこにあるのかというと、アフリカ大陸の東側、インド洋側の赤道より少し南側にあります。面積は日本の2倍以上あり、人口は日本の半分程度で、あと野生動物、キリンとかシマウマ、ライオン、そういったものが有名なんじゃないかなと思います。日本から行こうとしますと、中近東、ドバイとかドーハで乗り換えて片道で中継地まで10時間、そこからアフリカまで5時間とか、片道だけで1日以上かかるというような大変なことです。

なんでこんなことをやりだしたかということの一つに、私の父も春日井で眼科を開業してましたけども、その父が、愛知県のいろんな大学に留学しているアフリカをはじめとした途上国の留学生たちを家に集めて、一緒にご飯を食べたり、英会話を勉強したりということをやったので、そんなことがきっかけで、ベースになり、こんな活動を始めたんじゃないかなって思ってます。

最初にこの様な活動をするには、いろんなお手本が要りますので、1999年から徳島県

の藤田眼科という藤田先生が、ミャンマーで年2回同じような活動を行っていましたので、そちらの方に10回ほど参加させてもらって勉強させてもらいました。まずは超音波白内障手術の有用性や、合理性を理解してもらうために、医療機器、顕微鏡などを持ち込んで、実際の手術をして、こんなにたくさんの人を短時間で手術できるということを実感してもらいました。

ミャンマーで勉強したことをタンザニアで活かさないかということで、タンザニアの医療の現状について調べてみると、これは途上国どこでもそうですが、政府としては、乳幼児だとか臨産婦の死亡、マラリア、エイズ、結核、そういった生命に直接関わる疾患の対策が最重要課題で、眼科医療まで手が回らないというのが途上国の医療の現状です。タンザニアは世界5位の医師不足で、4万人に対して一人とか、日本だと大体400人に一人、そういう状況です。タンザニアの眼科の医療の現状として、眼科医は当時30人しかいませんでした。

最初は、「お前ら一体何しに来たんだ」というような感じでしたが、訪問回数を重ねることにお互いの信頼感が増して、仲良くなるような手術を教えられるような立場になってきました。現地の白内障は本当にシビアで、ほとんど失明している人が、僕らに手術してくれって言うてくるんですが、比較的若い女性たちもほぼ失明していて、術前診察では家族に手を引かれてきたりとか、壁をつたってきたりする人が、手術が終わって次の日歩いて診察室入ってくる。私たちボランティア活動をやっていると本当に辛いことたくさんあるんですが、本当に喜んでくれて、泣きながら、初めて家族を見た、初めて孫の顔が見えたと抱きつかれると、私たちがこの苦勞してきて良かったという瞬間です。現地のテレビ等でも取り上げられ、今では一般の方も私たちを見かけると、声をかけてくれるようになりました。

タンザニアにある日本大使館、職員の人たちが協力してくれて、いろんな医療機器を搬入する時の通関であるとか、いろんな書類作成なんかにあたって、日本大使館の協力は大きかったと思います。あと、私たちの活動にはやっぱりお金が必要なんですけど、ルート製薬さんが大変協力してくれて、そういう点眼薬であるとか眼内レンズとか、そういうものを提供してくれました。

タンザニアでの疫学調査もしていて、アフリカは紫外線が強いので白内障に関しては直接関係がありませんでしたが、一番印象に残っているのは、アフリカ人は視力が4.0とか5.0というイメージがあるかもしれませんが、アフリカもスマホが普及して近くを見るようになりました。彼らの生業というのは、牛を放牧してそれを売ったりして生活しているんですが、結局どこにも美味しそうな牧草があるとか、ライオンが出てきて大事な牛を食べられないか、遠くの方ばかりずっと見てるから、それで視力4.0とか5.0になるんですけど、スマホが普及するとスマホの位置情報でどこに美味しい牧草があるとか、どこにライオンがいるかって分かるんです。

もちろん私たちもそうなんですけど、スマホは仕事以外にも楽しいこといっぱいありますから、近くの方ばかり見て、おそらく今マイザ族を調べても4.0、5.0の人はいないと思います。そういうような時代の流れでの近視化というの印象的でした。

タンザニアの先生に日本に来て勉強してもらいました。向こうの眼科の中心の先生が、日本の学会にも一緒に参加して発表してもらい、藤田医大に見学に来たり、眼科関係者と交流したり、小牧市の市長さんを訪問したりもしました。そのことを新聞にも取り上げてもらいました。

こんな活動をやっていただくことを外務大臣に表彰されました。2022年、私たちのグループとして表彰していただくことがありました。そんな支援活動の成果ですけれども、その新しい手術方法の導入と普及、2007年3%だったのが15%、今30%近くになっていると聞いております。私たちが関わっている大学病院での手術件数も300件が500件、今800件以上になっていると聞いてますけれども、ささやかではありますけど、そういう白内障による失明者を減らしていきけるのかなと思っています。

とはいえ、課題も多いです。活動経費の問題、基本的に私たちのポケットマネーでやっているものですから、もう大変な値段になってしまいます。あと治安の問題。特に今、中東では戦争が始まってしまってますので、中東を避けていくとなるとお金と時間がかかります。あと、経済発展すると、その高度な医療技術を提供できる病院が中国、インド、トルコ、そういった国の資本によって建設されるという傾向があります。眼科に限らないですけど、高度な医療が提供できる訳ですから、そこで現地のドクターたちも学習できます。すると医療支援というのから共同して問題に取り組み。どういう問題点があるかという、そういう関係に移行しているというの現状です。

まとめとしては、タンザニアで超音波白内障手術が普及して失明視力が減少するには、タンザニアの眼科医たちの新しい技術獲得と手術機器の入手、そういったものが重要です。また、経済が発展して国民の収入が増加したりとか、電力が安定して供給されるという環境整備も重要であると考えています。あと、タンザニアの現地の眼科医が中心になって、患者一人一人の幸福を考えた最善の方法を検討して、多くの白内障患者が救済されるということを目指します。

例会のご案内

■今 週 5月18日 (月) 福岡西RC創立70周年記念例会
場 所: ホテルオークラ福岡4F 「平安の間」
時 間: 17:00~

■今 週 5月21日 (木) R規定により休会

■次 週 5月28日 (木) RAC・IAC合同例会
場 所: ヒルトン名古屋4F 「竹の間」
時 間: 受付18:15~ 例会19:00~20:30